

審議会の概要	
名 称	令和7年度 第2回向日市地域福祉計画策定・推進委員会
日 時	令和7年10月6日（月）午前10時から11時30分まで
場 所	永守重信市民会館 2階 第2会議室
参 加 者	（委員）石井委員、橋本委員、山本委員、籠谷委員、佐野委員、亀山委員、前坂委員、芦谷委員、村上委員、石田委員、麿嶋委員
	（幹事）柴田、伊藤、大野、田口、藤野、沢合、熊上、里見
	（事務局）岩尾、清水
	（オブザーバー）向日市社会福祉協議会事務局長、総括次長
議 長	石井委員長
傍 聴 人	なし
議 事	
1	開 会
2	委員の紹介
3	議 事
	（1） 会議の公開について 会議録の要旨作成と公開について、委員会で承認。 会議の傍聴者なし。 （2） 骨子案作成のためのたたき台について 事務局から骨子案作成のためのたたき台について説明。 【主な意見等】 （委 員） 高齢者、障がい者、子どもなどの縦割りではなく、横のつながりができればいいと思う。認知症の高齢者のところに子供が行って、折り紙を教えてもらう活動があるらしく、双方にメリットのある活動となっている。 （事務局） 多世代交流については、向日市でも議会の質問で出たように検討課題の一つと認識している。資料34ページの『地域とつながるきっかけや顔が見える関係づくり』の中の、市の取り組み『地域の人たちが誰でも気軽に集まり、交流できる場の提供』という形で、多世代交流を盛り込んでいる。 （委 員） 今後の地域福祉はごちゃまぜがキーワードになってくると思う。きっかけ作りがこの計画から始まると良いと思う。 （委 員） 第2期計画では、1つの目標に具体的施策や事業が細かく書いてあるが、第3期では、大きな目標と主な取り組みを記載する方向でいくのか。 （事務局） 第2期計画では、こういう事業を進めていくと細かく記載している。計画の進捗管理をする上で、各担当課が個別事業の実施状況のみにとらわれてしまうことはよくない。第3期計画は市として大きい方針を示す形で作成し、いろんな側面から進捗確認ができるよう、大きい枠組みの中で決めてい

こうと思う。

(委 員) 社協と市の取り組みをまとめて記載されているのはわかりやすい。

(委 員) 第2章にでてくる数字が根拠となって施策を決めていると思う。全国平均と比べて向日市は高齢化率の推移が緩やか。数値の急激な変化があると課題解決すべきことがわかりやすいが、向日市は緩やかな推移なので、こういう状況で市の方向性を示すための計画になると思う。

(委 員) 38ページ『関係機関の連携強化による相談支援の充実』の社協の取組に、『生活相談員や就労支援員の配置』とあるが、ここだけ少し細かい内容の表記になっていると感じる。冒頭に個人ボランティアの登録者数が倍以上になったと説明があったが、市からの委託事業等を通じて相談対応体制の強化に取り組んだ結果、ひきこもりの相談ボランティアを希望されている人が増えている影響だと考える。職員の配置について、計画で触れるのではなく、行政と連携して社協が取り組んでいるものを盛り込んで欲しい。

42ページ『災害ボランティアセンターの活動促進』について、社協が常設型で運営しているものではなく、行政と協定を結んで、災害発生時に市からの要請によって設置運営する仕組みになっている。行政と社協の委託事業や連携について、もう少し触れていただければ良いかと思う。

(事務局) 社会福祉協議会の取組については、関係機関との協議で内容を詰めていければと考えている。

(委 員) 完成した計画をネットにこのまま載せると、見た方が読み流してしまう。写真を載せたり、相談窓口の電話番号やメールアドレスを載せる形にするのはどうか。第3章と第4章について内容が重なるかと思うが、どうされる予定ですか。単身世帯が増えてきている点についてもどのようにされるのか。

(事務局) 事業や活動内容のわかる写真等について、載せていこうと考えている。第4章については、相談窓口の情報が多くなってくるかと思う。窓口一覧ページを設けるなど、見やすい表現についても含めて、庁内で調整していく。

(委 員) 前回の第1回会議で、ひきこもり支援の必要性和防災をからめての推進などの良い意見が出た。特にひきこもり支援は社協で力を入れているので、計画に盛り込んで欲しい。自治体加入率について、防災を絡めての推進などの記載をお願いしたい。

(事務局) ひきこもり等について、市の取組か社協の取組で掲載するのかなど、協議しながら進めていきたい。

(委 員) 計画には全部いいことが書かれているが、この月はこれを進めていくなど、月別で推進していった方が、前に進むのではないかと思う。

(事務局) 年間を通じて実施しているものや、季節に応じて実施しているものなどい

ろいろあるので、年間の流れがお示しできるものがあれば参考にさせていただきたい。

(委員) データから見ると、令和22年には高齢化率が、33.5%の予測で今後高齢者が増えていくことで、若い担い手が少なくなる。元気な高齢者で活動できる人を増やしていかないといけない。今も介護予防で元気な高齢者の居場所づくりをしてもらっていますが、もっと推進してってもらい、それを計画に追加してもらいたい。

(事務局) 当初の骨子案では、高齢関連のものが多かったので、あえて外したものがある。委員から意見がでたので、市の取組の中で検討していく。

(委員) 向日市の面積は小さく、狭い市である。その中で社協は重要なポジションにあるが車で行けないのがとても不便。行事をやるにも、福社会館ではできず、以前は競輪場を借りてやっていた。地方の社協は広くて、駐車場が100台くらいあるところもある。難しい問題だと思うが、何とか打開策はないか。

(事務局) なかなか難しい問題で、向日市は狭いため移転先等の土地がない。利用者が使用しやすいように少しずつ改善して、環境整備に努めている。建て替えや移転は難しいが、利用者目線で改善していきたい。

(委員) 元気な高齢者はいっぱいいると思うので、動きやすい環境を整備することが重要。福社会館は坂を上らないといけないのがネック。駐車場がない。市の駐車場に止めると料金が高い。2時間くらいは無料券がもらえるが、準備や片付けをしていると、2時間以上かかることも多く、自分でお金を出すことがある。

社協の活動計画とひとまとめになり、取組が一緒に見えるのはいいことだと思う。

町内会に入らない地域が多く、社協の会員についても増えない。

ぐるっとむこうバスの停留所が行きと帰りで違うので、考えて使わないといけない。買い物に行くのに困っている地域がある。

セラピードッグのサークルがなくなってしまった。犬や子どもがお年寄りのところに行くのは、すごくいい効果がある。

(事務局) 交通関係については、この会議では答えにくい部分だが、すごく難しい。地域公共交通会議でよりよい向日市にするために、毎年議論を重ねている。買い物難民、道が狭い、坂が多い等は市全体の課題と認識している。すぐに答えが出るものではないが、声をあげていただけることが大切と考えている。

(委員) 生活は福祉が支えている、と住民も感じている。教育、交通、司法、各行政も専門で仕事をしており、すべてひっくるめて生活がある。この地域福祉

計画を各部門につなげていただければと思う。

(委員) 衛生環境課が作成している、年末年始のゴミの最終日を知らせる紙が、自治会に入っている人分しかなかった。自治会に入っていない方の分は、自分がコピーして配った。自治会に入っているグループと、自治会に入っていない人全員を含めたグループの二重の地域をつくるといいと思う。ぼやっとした自治会への入会の有無が関係ないグループもあればいいと思う。みんなが参加できるものがあれば、そこからつながりができると思う。

(委員) 地域の運動会で、他地区の人が参加していて問題になっていた。大山崎町は地域以外の方にも案内を出したが、反感があったらしい。自治会に入っている・入っていないで、二分化している。自治会に入っていないでも入っていないでも仲良くする方法はないのかと思う。

(委員) 移動難民、買い物難民の問題で、最近では宅配スーパーが増えてきている。行政以外に民間等の役割があると思う。市民がすべきことや向日市にある会社がすべきこと等は計画に載せないのか。

(事務局) 南丹市等の計画では、住民、事業所等、社協、市の役割をそれぞれ書いているところもある。今の向日市同様に、市と社協についてだけを表記している自治体もある。市民の皆様はどういう役割を持っていただければいいのか、表現方法を考える必要がある。義務のようにならないように、表記していく必要がある。貴重な意見として、今後の参考にさせていただく。

(委員) 高齢者と子どもの関係で、ハロウィンの時期にシニアの方々が自分の家を装飾し、地域の子どもたちが、その家を回ってお菓子をもらう。クリスマスの時期にお返しとして、折り紙が上手なお年寄りの家で教えてもらいながら作ったものとバブを子どもたちが、お菓子をもらった家に渡しに行く。この活動により、地蔵盆のときにシニアと子どもたちの交流が増えたと思う。また、シニアが自分でゴミ出しができるくらいに元気になったり、笑顔も増えたように思う。施策や事業をクリスマスとかイベントごとにしてもいいと思う。

(事務局) 33ページの『市民の自発的な福祉活動に対する学習機会や情報の提供』では、さまざまな工夫が必要だと考える。代表的な取り組みとして参考にさせていただきます。

(委員) 広報はどこで見れるのか、SNSはいつ発信されるのかと言われる方がいるので、広報誌がいつ発行されてどこで手に入るのかわかりやすく案内してもらいたい。

(事務局) 広報誌については、月初に各戸配布される。計画の最後に資料編として、様々な情報を載せている自治体もあるので、広報誌の発行回数なども書ける範囲で表記方法を検討する。SNSについては、随時するもの等もあるの

で計画に落とし込めるかわかりませんが、検討していく。

(委 員) 福祉会館は行くのが大変。巡回バスもステップが高くて乗りづらい。市民体育館も入り口から停留所が離れていて不便という意見がある。

障害者手帳を保有している人が増えてきているが、身体障害者協会の会員になってくれる人は減少している。年1回タクシー券の配布時に、市から積極的に紹介していただきたい。

私の住んでいる地域では、自治体の活動としては特になにもしていないが全員自治会に入るようになっている。80歳を過ぎたら役員は免除される。

(事務局) 交通問題については、難しい部分が多いが、バスのステップが高い等については、担当部局に伝える。タクシー券配布時の案内については、部内で共有していく。

(委 員) 視覚障害の方と話す機会があって、団体に入るきっかけは市役所の相談窓口からの紹介という人が圧倒的に多かった。

社協の取り組みがあるから市の取り組みがあるなどの、方向性や関係性がわかるような表記の方が良いと思う。引っ越してきた人とか困っている人、福祉に参加したいと思っている人が計画の冊子を手にとって、相談窓口が明確、ここに行けば福祉に参加できる、1冊で元気をもらえたと言ってもらえるような見せ方ができれば素敵だと思う。